

# 第1回個性豊かな地域づくり部会 議事録

## (開催要領)

1. 開催日時：令和4年11月30日（水）15時～17時
2. 場所：県庁行政庁舎1105会議室
3. 出席委員（五十音順）：

伊藤 数子	特定非営利活動法人STAND代表理事
井村 辰二郎	株式会社金沢大地代表取締役
岩城 慶太郎	アステナホールディングス株式会社代表取締役社長
唐澤 昌宏	国立工芸館長
興津 泰則	DIBC Office KYOZU代表
久保 幸男	一般財団法人石川県芸術文化協会理事長
志村 恵	金沢大学副学長
しもおきひろこ	フードコーディネーター
高峰 博保	一般社団法人能登定住・交流機構代表理事 加賀白山定住機構事務局長
中巳出 理	株式会社Ante代表取締役
西川 圭史	株式会社石川ツエーゲン代表取締役GM
早川 和良	石川県観光総合プロデューサー
平出 昌広	一般社団法人日本旅行業協会中部支部石川地区委員会委員長
水野 一郎	金沢工業大学教育支援機構教授
水本 協子	石川地域づくり協会運営副委員長

## (議事次第)

1. 開会
2. 議事
  - (1) 石川県成長戦略会議の構成と進め方について
  - (2) 石川県長期構想の概況について
  - (3) 県民意識調査等の結果について
  - (4) 分野別の現状・課題と今後の方向性について
3. 意見交換
4. 閉会

(説明資料)

- 資料 1 石川県成長戦略会議の構成と進め方
  - 資料 2 石川県長期構想の概況
  - 資料 3-1 県民意識調査等の結果の概要
  - 資料 3-2 県民意識調査等の結果
  - 資料 4 現状・課題と今後の方向性（個性豊かな地域づくり部会）
  - 参考 1 石川県成長戦略会議規約
  - 参考 2-1 社会経済動向（部会共通分野）
  - 参考 2-2 社会経済動向（個性豊かな地域づくり部会）
  - 参考 3 第 1 回成長戦略会議の主な意見
-

## 1. 開会

### 【竹内観光戦略推進部長】

それでは定刻となりましたので、ただいまから第1回石川県成長戦略会議、個性豊かな地域づくり部会を開催いたします。

(中略)

議事に入ります前に座長の選出についてお諮りをさせていただきます。参考資料1の石川県成長戦略会議規約の第6条に、座長は各部会の委員の互選により選出とございます。事務局といたしましては、金沢工業大学教育支援機構の水野委員に座長をお願いしたいと考えておりますが、特段の御意見はございますでしょうか。

(異議なしの声あり)

御異議もないようでございますので、本部会の座長は水野委員をお願いしたいと存じます。水野座長、恐れ入りますが、お隣の座長席にお移りくださいませ。

それでは、水野座長から御挨拶をいただきたいと存じます。

### 【水野座長】

金沢工大の教育支援機構の顧問、水野でございます。どうぞよろしく願いいたします。

ただいま座長ということで推挙いただきましたが、今日皆さんの顔を拝見しましたら多士済々なので、これはうまくやれるかなと思っております。ですが、多士済々の会であることを盛り上げていただくように皆さん、御協力お願いいたします。

それでは早速、議事に入りたいと思います。議事次第にございますように、(1)石川県成長戦略会議の構成と進め方について、(2)石川県長期構想の概況について、(3)県民意識調査等の結果について、(4)分野別の現状・課題と今後の方向性について。一括して御説明を願いたいと思いますが、それではよろしゅうございますか。

資料は膨大になりますので、それと事前に配付されておりますので、少し簡略にお願いできればと思います。よろしく願いします。

## 2. 議事

- (1) 石川県成長戦略会議の構成と進め方について
- (2) 石川県長期構想の概況について
- (3) 県民意識調査等の結果について
- (4) 分野別の現状・課題と今後の方向性について

(事務局から会議資料1～4に基づいて説明)

## 3. 意見交換

### 【水野座長】

それでは意見交換にまいりたいと思いますが、最初に資料1というのがございました。その中に5つの部会があつて、我々は3番目の部会でございます。1が強い産業づくり。産業

ですね。2の部会が農林水産業の振興でございます。3が個性豊かな地域づくりということでございます。4が温もりのある社会・人づくり部会。教育とか地域コミュニティとか、そのようなものですね。それから5が安心・安全な地域づくり。防災とか防犯とか、そのようなものを含んでいます。

そのような意味でいいますと、我々の部会はどちらかというと、最後のほうの、あらゆる部会のテーマで現状・課題、方向性についてお話しいただきましたように、文化が中心かと思えます。

石川県成長戦略会議のほうでも石川県の個性として文化、文化立県だという話は、かなり強く出ておりました。そのような意味でいうと、このテーマが中心だと思います。あとはここにおられる、先ほど言いました多士済々の方々がいろいろな文化のジャンルの代表して来られていますので、このような機会ですべての分野の方からお一人ずつ3分ぐらい、お話をいただければと思います。

内容は発言する方にお任せしますが、全体的なテーマがないわけではないです。例えばCO2の問題やデジタル化の問題など、そのような全体の話もあろうかと思えます。それで発言いただいても結構ですが、可能な限り自分の分野の文化に関することをお願いできればと思います。

それでは、名簿順といたしますか、子どものときからあいうえお順で、いつも先頭であられる伊藤様からまいりたいと思います。

#### 【伊藤委員】

私はパラスポーツを通して共生社会を目指す活動をしております。パラスポーツは障害のある人のスポーツですね。実はスポーツの分野で馳浩知事には、文科大臣の頃から大変お世話になっております。昨日お目にかかった折に、馳浩スペシャルアドバイザーを拝命いたしまして、いわばもっと貢献せよということであると肝に銘じ、今日は参りました。

今、水野座長がおっしゃったように、個性豊かな地域とはどんなところかと考えたときに、住んでいる全ての人が自分のやりたいことにチャレンジできる石川ではないかと考えたわけです。一人一人には個性があり、したがって、やりたいことは一人ずつあるのですけれども、そのチャレンジを止めずに応援する。そうしますと、たくさんの花が咲く。これが成長と私は考えております。そこでチャレンジということをもっと提案していきたいと思えます。

少し自分のことになるのですが、新潟県の佐渡島で生まれまして石川県に参りました。30年ほど前にこの地でたくさんの方にお世話になり、企画会社を始めました。その後、現在のNPO法人をつくったわけですが、事の起こりは2003年です。電動車椅子サッカーという、重度の障害のある方たちがやるスポーツでした。その全国大会をインターネットで生中継しました。現場は大阪の体育館です。

会場で一人の男性が私たちのところへ来て、とても大きな声で「おまえら、障害者をさらしもんにして、どないするつもりや」と言いました。私は腰が抜けました。そして考えました。その男の人が悪人だというよりも、障害のある人のことを晒し者、晒し者というのは人前で恥をかかされた人という意味合いですけれども、障害のある人をそう言うってしまう社会のほうに間違っているところがあるのではないかという大きな違和感を覚えました。そこでNPOを立ち上げ、障害のある人がスポーツをすることをとにかく知ってもらいながら、社会が少しでも変わればと思っています。

石川県でこの事業の挑戦を始めましたけれども、踏み入れたことのないスポーツや福祉の分野でありましたので、たくさんの方が応援をしてくれたのですけれども、親切心から踏みとどまるようなアドバイスもたくさんいただきました。前例がない、時期が早いのではないかと、そのようなことするといろいろ迷惑がかかるのではないかと。親切で言っていたいていのですけれども。でも初めてのことというのは、何でもそうではないですか。やってみなければ分かりません。全部ではないのですけれども、勢いをつけて前のめりになってやったほうがいいこともあるのではないかと思います。したがって、私のチャレンジはあまり進まず、それほど皆さんが親切だったと思います。優しかった。私がそこから落ちてけがをしないようにという親切心だったと思います。でも私は、拠点を石川県から、東京に移しました。

ですが、時代が変わったと思うのです。私はチャレンジができる社会がいいと思います。一つ目は老若男女、もちろん障害のある人も含めて、全ての方が躊躇なく、思う存分チャレンジができるということ。それから二つ目には、住んでいる人だけではなく、全国から、世界中からチャレンジするために石川に行こうという環境をつくって本気で応援をする。これが私にとって個性豊かな社会と考えた次第です。これからは、チャレンジを応援する石川でありたいという御提案です。個性をきらきら光らせて、石川新時代を目指したいと思っております。振り返ると馳浩知事はチャレンジの固まりのような方です。

#### 【水野座長】

チャレンジできる地域が豊かである。大変ユニークな提案だと思います。

#### 【井村委員】

金沢市で有機農業をやっておりまして、あと能登等で農業をやっています。あとは株式会社金沢大地という食品加工メーカーを運営しまして、主に和食を日本中、世界に輸出しているという業態をやっております。同時に、尾張町に金沢ワイナリーという醸造所を持っています。それで、フレンチレストランの経営などもやっておりまして、まさに食というところでやっております。

私は昭和39年生まれで58歳なのですけれども、本当に石川県に生まれて大変よかったと思っております。満足度100%と思っております。大学は東京で出たのですけれども、やはりふるさとの豊かさというものに感謝して戻ってまいりまして、本当によかったなと思っております。ですから、この会でそのような自分の感じたことなどを少しお役に立てればいいかなと思っております。

食育という言葉がありますように、馳さんが大臣をなさっていたときに、食育の文部科学大臣賞を頂きまして。それは生協さんと一緒に子どもたちと大豆作りをして味噌を造ったり、そのような活動が表彰されたという御縁もありました。山中塗の部門に前社のプロデューサーとして参加しまして選んでいただきまして、川北先生やいろいろな方に指導をいただいて、山中塗のそのようなアーカイブの仕事もさせていただきました。

そのような感じで、生まれた頃から、九谷茶碗まつりだったり、伝統工芸にもとても小さな頃から触れていて、豊かな食にも触れていて、本当にこの石川県のよさを紹介したいということで、レストランでも珠洲焼きの器や輪島塗、山中漆器、九谷焼、こういったものの器で食事を出したり。本当に石川県の可能性というのは満ち満ちていると思っております。本当に素晴らしいと思っております。

2人の子どもの父親でもありまして、小さい頃から子どもはサッカーをやっている、娘はクラシックバレエをずっとやっています。そのような環境も石川県にはあるということで、今回本当にこの委員に選んでいただきまして、今一度、県民として、中間の世代としていろいろなことを言えたらと思っています。

最後に提案としては、やはりシルバー。私の父も母も介護が必要な80代であります。このシルバーの人たちと、どのようにして文化やスポーツと一緒にしっかりとした生活をしていくか。一方、やはり若い世代。この世代が希望を持てる、そのようなふるさとにしていこう。シルバーと特に若い世代、この世代をしっかりとサポートしていけるような計画にするといいかと思えます。

最後なのですけれども、私は農林水産省の地球温暖化の小委員会の委員も10年間やっています、今、生物多様性の委員もやっています。あとは植物防疫の委員などもやっているのですけれども、専門としてはカーボンニュートラルと生物多様性が、どちらかという専門分野であります。

### 【水野座長】

有機農業にこだわらず、あらゆるジャンルで地域の豊かさを感じさせるお話でした。大地の恵みのような感じですね。

### 【岩城委員】

上場会社の経営者をやっていると、成長という言葉に大変敏感になります。毎回、四半期に1回のIRにおいて投資家から成長を求められる立場にあるものですから。この成長戦略会議への参加を馳知事から言われたときに、少し逡巡したのです。それはどうしてかという、一体、石川県にとっての成長とは何だろうというのがよく分からなかったのです。上場会社の場合は非常に分かりやすいです。売上げ、利益、時価総額等々の、あるいは、最近でいえばESGも含めた企業価値の成長なのですが、果たして県にとっての成長とは一体何なのでしょう。税金なのか人口なのか県民の平均所得なのか、それともいわゆる公的事業のRYがよくなることなのか。それかウェルビーイングなのか、さっぱり分からないというところで、少し定義をはっきりさせたいなと思いつつ、まだその定義がはっきりしていないので、少し手探りながらお話をさせていただいているところでございます。何か定義があれば、ぜひお教えいただきたいと思っています。

個性豊かな地域という話であります、この個性豊かな地域というのは、つくるのは非常に難しいと思うのです。というのも、日本はどこへ行っても結構日本ですので、それほど言うほど個性はないですし、確かに私、石川県は大好きで、珠洲などは本当に好き過ぎて移住しましたので、非常に魅力ある場所だと思うのですけれども、ですが、そこまで個性がものすごくあるかという、そうでもないかなと正直自己評価しています。

そのような中でどのようにして個性豊かな地域をつくるのかという話をしますと、恐らくこれは個性豊かな人間をつくるのが大事なのではないでしょうか。人材をつくるのが大事だと思います。先ほど、地域づくり人材が足りないという話に少し触れられていたが、まさに個性ある地域をつくるのは人材でございます。この個性ある人材をどのようにして育てるのが非常に大きな 이슈になると思っています。

意外と、長く石川県にいる人たちというのは、自分たちの個性がどこにあるのかをよく分かっていない人が、あるいは魅力がどこにあるのかをきちんと分かっていない人も中にはい

らっしゃいますので、リカレントも含めた、再教育も含めた、いわゆる個性ある教育に力を置いてはどうかと思っています。教育は投資です。その投資をすることによって、個性豊かな地域が長期にわたってつくられていくのではないかと考えています。

### 【水野座長】

今までお聞きして、伊藤さんにしても井村さんにしても、一人一人の人材が生き生きとしているというか、含めて、そのような人たちがたくさんいるところが豊かな地域という表現にずっと聞こえるのです。これはなかなか面白い指摘だと思っております。

### 【唐澤委員】

文化ということで、お声をかけていただいたのだと思います。私は2年前に金沢市民になりました。そのような意味では、まだまだ浅いのですけれども。私は工芸に深く関わっているのですけれども、こちらに来て思ったのは、つくり手たちを見ているとハングリー精神が感じられないということでしょうか。これはどうしてかということ、行政が手厚過ぎるので。県も市も。これは非常に感じるのです。

とてもすばらしく応援をされているので、至れり尽くせりの部分がどうしても見えてしまうのです。ですから、ああいったものに参加しよう、こういったものに参加しよう、このようなことをやったらいいのではないかというところをやってはいるのですが、常にお膳立てがあって、その上で転がっている感じがしてしまうのです。それはとてもいいことだと思うのですけれども、もう少し、手厚いところとそうでないところのバランスをうまくやっていただけると、もう少しハングリー精神が出て、頑張ろうかなという気持ちになっていただけるのではないかと思います。

例えば、資料4の「現状・課題の方向性のイメージ文化」（2頁）に「統計から見る石川の文化」とありまして、1位、2位、6位とすばらしいのです。この項目のところに書いてある、例えば「日本伝統工芸展入選者数」が人口100万人当たり1番であるとか、「人間国宝」が人口100万人当たり1番であるなど。これを平たく見ていくと、「日本伝統工芸展入選者数」に関して、参加している方々は作家さんなのです。恐らく職人さんはいません。人間国宝も作家さんです。また同じ1位の「日展入選者数」に関係する方も作家さんです。2位の「国指定伝統工芸士数」に関しては作家さんではなく、多分職人さんです。6位の「国指定伝統的工芸品数」、こちらに関わる方々も作家さんではなく職人さんです。

こうやって見ますと、いろいろな工芸がしっかりあってここで活躍をされている方がたくさんいらっしゃいます。だけれども、ハングリー精神がないというのか、そこをうまくついついていかないと、今後伸びはないのかなと思います。非常に申し訳ないのですが、漠然とイメージがないので、そのようなところを常に見ながらどうしていったらいいのか探っています。

実際に作家さんと職人さんが一緒に何かをやるかといいましたら、多分ないのです。展覧会、公募展といろいろあるのですが、それは作家さんたちがやっています。産業云々というのになると、職人さんたちがやっています。完全に縦割りで分かれてしまっているのです。ですが、一般の方々はそのようなことは分かりません。工芸という広い中で、こういう人たちもいるのだ、こういう人たちもいるのだと見ている関係なのです。それらをうまくつなげながらやっていかないと、多分伸びはないのではないのでしょうか。

ですが、石川、金沢というところのポテンシャルは大変高いです。特に石川全体はポテン

シャルが高いので、このポテンシャルをさらに高めるにはどのようにしたらいいのかというのは、私も大変悩んでおります。

### 【水野座長】

大変な、少しドキッとのお話でした。やはり伸び代について疑問があるというお話で、大変大事な指摘かと思っております。ほかのジャンルでも、そのようなところがあるのかもしれない。そのようなことがありましたら、教えていただきたいと思えます。

### 【興津委員】

この石川県というのは実は非常に観光の資源はあります。しかし、旅行ニーズや観光客というのは、その時代やそのときの景気の問題、世界の情勢の問題等によって大変変動します。そのような時こそ、一番大事なことは、ここへもう一度来たいと思えるような地域づくりが実は大変重要なのです。そのポイントは、最近よく言われているのは地域コミュニティとの触れ合いがしっかりしているかどうかと言われております。それによってもう一度あそこへ行きたいと思えるのです。

大事なことは、観光の資源はあります。石川県は、この観光といったときに統一できない地域性もあります。金沢、加賀、能登と3地区あるのです。その3地区の特性を見分け、地域によっては観光資源の磨き上げや地域によっては冒頭にお話ししたコミュニティーを中心とした取組こそがリピート人口の拡大に繋がります。

特に問題なのは、そのコミュニティーによって触れ合いをどのようにつくっていくかが実は重要で、これは資源ではないのでつくり上げる必要があります。そこに資源をどのようにつなげていくかが、今からの交流人口には大変重要なことなのです。

初めての人にとくさん来てほしいというのであれば、実はリピーター率をいかに上げるかでそのことが結果、最近言われているような、SNSによる拡散に繋がり魅力が拡散すると思えます。

それから資源も実は文化財だけではなく、そこにたくさんあるのです。ホテルであり星空であり、今それが全国的に非常にヒットしています。ですから、必ずしも固定のものが全ての観光資源にはならないということをもう一度ゼロから考えていただきたい。石川県には自然がいっぱいありますので。

最後に一番大事なことは、そのことを、来るお客様だけのためにしているとこれは住民から納得されません。住民の人が納得して参加できるようなことをしっかりとやっていただきたいと思えます。そうしなければ、無駄な金を使っているのかと言われる。したがって、地域住民を巻き込んで、地域の人たちが納得する活動を一緒に組み合わせることにより、そこに交流人口の拡大ができます。

その事例として、Ma a Sという取組を県でやっていらっしゃいます。これは地元住民だけではなくて、これを観光の皆さんも使えるようにすれば、入場からバスから、全ての決済が1つでできます。そうしますと、住んでいる人たちにとっても非常に便利です。いいことをやってくれましたと。しかし、訪れているお客さんも、入場もバスも全てそのカード1つで全部決済できれば、場合によっては観光というのは入場まで全部それで決済できれば、非常にメリット、ほかにはない仕組みができるということです。

そのようなことをぜひ今後取り入れて、成長戦略の中に入れていただきたいと思えます。ただし、先ほど言いましたとおり、その時代時代の大きな流れによって大きく変わるのがこ

の世界でございますので、地域住民に少し足を向けておくことによって、それを回避しながら地域の成長につなげることもあることをぜひ御理解いただきたいと思います。

### 【水野座長】

大変いろいろな視点が観光にもあるのだなということです。突然コロナがやってきて世界中が混乱しました。

### 【久保委員】

来年は国民文化祭が開催されるということで、石川県芸術文化協会加盟団体も来年の国民文化祭に向けて今、準備を一生懸命進めているということではありますが、国民文化祭のある年でなくても、石川県では文化芸術団体が非常に盛んに活動していると思います。石川県芸術文化協会の加盟団体も既に50団体を数えるまでになりました。年間のそれぞれの団体の発表会等、活動を見ていると、100に近い本数を毎年開催されております。邦楽であったり、能楽であったり、またはお茶会であったり。石川県立音楽堂を含めてさまざまな会場で、音楽会、そして展覧会、そして花展などが日常茶飯事のように、この石川県では行われています。そうした点で言えば、ほとんど他県に類を見ないほど恵まれた文化活動をしている地域だと感じております。

そのような中で、特に昨今少し問題が出ているとすれば、伝統芸能の承継、継承をどのようにしていくかという意味で、従事者が若干少なくなっていることが気がかりではあります。それと、それを支えるソウルメイトのような形が少し薄らいでいます。そうした中で、いい事例だと思ったのは、石川県伝統芸能支援経済人会議の発足です。邦楽分野の活動を支援していこうと、経済界が寄り添って、金沢商工会議所と金沢経済同友会、石川県芸術文化協会が連携して作った組織です。

文化活動を支えるといいますか、文化活動に経済界なり議員はどのように関わっていくのが、文化活動を生き生きと生かしていく地域の1つのテーマかな、課題かなと思います。形としては、経済的な支援をして応援するという例もありますし、例えば、最近、展覧会でも音楽会でもそうですけれども、文化活動の中にボランティアという形で企業が関わっていく例があります。企業が文化支援活動を通じて得られるメリットとしては、文化的な知性や感性といったものが生きてくる点です。組織の中に創造性や価値観の多様性というものも生まれてきます。双方にメリットがあるでしょうし、地域が活性化されると考えます。

今ほど申しましたように、ほかでは行政が中心になって、文化活動、展覧会や発表会の場や機会を新たにつくらなければならない地域もありますが、石川県の場合は幸い、民間が中心になってそのようなものが非常に多くありますので、あるものを生かすということでもいいかと思います。現在あるものを生かして、それに新しい価値観を創造するという作業をすることで、より活性化されるのではないかと考えます。

観光という視点でこれから海外からの人もたくさん来るようになり、国際化をどのように捉えるかというお話も先ほどありましたが、国際化というと、やはり地域に住む人が地域の文化をより深く知ることが原点かとも考えますので、文化活動の面で、恵まれた環境を最大限活用した上で、基盤整備を考えてもいいのかなと考えています。

非常に魅力的な地域であろうと思います。

## 【水野座長】

芸術文化活動については、いつの時代も、どこの地域にも支援者というものがあまして、その支援者たちの力量がかなり問題なのですね。石川県の場合は、それを非常に積極的にやっているというお話だったかと思います。

## 【志村委員】

金沢大学では、留学生等のことをやっている国際担当の副学長であります。そういう意味で、国際交流等について少し申し上げたいと思ってまいりました。また、子育て支援の全国組織の代表理事もしております。最近双子のベビーカーがバスに乗れないことが話題となっておりますけれども、そういったところのサポートもしております。また、留学中は1シーズン100オペラを聞いた音楽が大好きな人間ですので、少し文化の話もできるのではないかと考えています。

多くの委員の方々がおっしゃったように個性の問題ですが、個性豊かな地域ではなく、一人一人の個性が大切にされる、そういう地域だとおっしゃっていただいて、本当にそのとおりだと喜んでおります。その意味でダイバーシティが本当に重要になってくると思います。LGBTQも含めまして、それから留学生や外国を背景に持つ県民を含めた一人一人が大事にされる、そのような地域づくりがなされればうれしいと思っています。

そのような中で特に外国を背景に持つ、あるいは留学生の方々に、しっかり地域に定着していただける仕組みをつくっていきたくと思っています。金沢大学も留学生の地域定着のプログラムを持っております。これをしっかりと北陸地域全体も含めてやりたいと思っています。

そのときに大事なものは、外国を背景に持っている県民がお客さんではなく、サブメンバーでもないし、コメンターでもなく、社会をつくるフルメンバーだということをぜひ進めていただきたい。一緒に社会に参画していく、そのような本当の意味での仲間ですから、お客さんではありませんので、おもてなし的な発想ではなく本当に一緒にやっていくメンバーだと、そういう施策をぜひお願いしたいと思っています。

そうすると、外国を背景に持つ人が地域に暮らしやすい、これはインバウンドの方々にも魅力があると思います。先ほどコミュニティの交流の話が出ました。やはり、そういう部分はとても大事だと思います。

それから皆さんがおっしゃるように、石川には文化コンテンツにすばらしいものがあります。しかもそれは、ショーウィンドーに飾ってあるものではなく、実際の生活の中でも営まれているオーセンティックなもので非常に魅力的です。しかもフルセットあります。焼き物だけ、染色だけ、そのような話ではなく、全部そろっているところがあります。これを使わない手はないと思います。

そうしますと、例えばインバウンドの場合はリピーターというお話がありました。まさに、それを狙っていくべきだと思います。長期開催で本格的なクラフトワークが学べる地域だとか、そういう長期滞在も含めた文化コンテンツをフルに生かしていく。そういうインバウンド政策がほしいと思っています。

ということで、特に外国を背景にする県民が生まれたときから死ぬまで、ここでしっかりと活躍できる、そういうことになったらうれしいと思っています。

## 【水野座長】

学都金沢とか学都石川という、大学の数はかなり多いのですよね、地域社会に。それを生かす1つの道を国際交流として留学生の問題、あるいは長期滞在の問題を含めてお話しておりました。

## 【しもおき委員】

金沢学院大学と金沢学院短期大学は、栄養士、管理栄養士を育てる学科で教えているのですけれども、その授業を通して食文化の大切さを伝えているのだけれども、この子たちはどこまで分かっているのだろうか、年を追うごとに毎年不安が募っていくようです。家で、もちろん加賀野菜を食べたことがない、家で治部煮を作ったことがない、かぶら寿司も食べたことがない。この人たちは栄養士になって、今から病院や保育園など、いろいろなところで食事をふるまう責任者として働いていくのに、その人たちがどうして地域の食を知らずして、きちんとお客様や病院の患者さんなどにおいしいものを届けられるかな、というのをいつも不安に思いながら授業をしています。

北陸の食文化では伝統食を教えたりもしているのですが、観光客の方がまず来て、北陸はおいしいもの、金沢はおいしいものがたくさんあるねとって何を食べるかという、近江町へ行って海鮮丼を食べて、東山へ行って金箔ソフトを食べて、片町へ行って帰りに金沢おでんを食べて帰るといふ。私たちは子どものときから海鮮丼を食べてきたわけでもなく、おでんは鍋を持って買いに行ったことがあるし、おでんはよしとして、これは本当の食文化なのか、みんな間違えていないかと、近江町の行列を見るたびに少し悲しい気持ちにもなります。

ただ、それはマスコミなどが刷り込みをやったり、いわゆる『ケンミンショー』とかいう番組をみんな見ている。この間NHKに出たときも、NHKの人たちもカニ面と源助大根でおでんを作ってくれという依頼でした。カニ面はカニ面で食べますし、あれは縁起物のようなものですから、おでん屋へ行って3,300円出して1個ずつ買えばという話をしたので。本当の意味の食文化が全く駄目になっているという感じがします。

では、それを観光客向けにどうするか、自分は何ができるだろうかと思ったときに、外国人の方に関してはやはり体験型の旅行というものが増えてきていますので、体験させてあげる。もしかしたら、すし飯を作って、それこそ海鮮丼風なものを自分の手で作るのがいいのか、それか大根を湯がいてみたり、金時草をちぎってみたりと、そういう体験型の料理教室をしてあげると、思い出深く、また行ってみたいと思われるのかなということを考えておりました。

学生を通して、そして自分も料理教室をしていて、いろいろなところに料理教室の出張で行って、加賀れんこんの皮をむいて切ったときに、「先生、このれんこん固い」と言われました。「れんこん食べたことないの」と聞いたら、「いつもヨシケイなどで切ったれんこんが家に届くので、れんこんは生まれて始めて切りました」と、48歳の主婦がそう言いましたので、これが現実だと思っています。ですから観光客、そして今からいらっしゃる外国人観光客、その人たちも大事ですけれども、もう少し底辺もしっかりしておかないと、底辺の揺らぎを最近すごく感じております。

## 【水野座長】

先ほど唐澤委員から工芸も作家だけは出てきて職人というのがたくさんいて、たくさん作

っているはずなのに、この人たちに対する目が行き届いていないのではないかと言われました。食文化もそうでしょうし、私の専門でいうと木の文化もそうで、子どもたちはのこぎりも金づちも使えません。親と一緒にと言いましたら、親もできません。そのような状態にあって木の文化などと言えるのかと話をしているのですけれども、私も含めて文化という話になりますと、なかなか難しいですね。難しいですけれども、やはり一人一人の力にいつか、先ほどからずっとあった話にありますように、一人一人の文化力というところに、だんだん目がいきます。

### 【高峰委員】

私からは移住に関わる話をさせていただきます。

2013年に能登定住・交流機構という組織を、能登の皆さんと設立し、それ以降、移住に関わることをして参りました。今は加賀白山定住機構もあり、広域の活動と個別自治体（能登町、宝達志水町、加賀市、能美市）での移住のお手伝いをらせていただいています。

最初から提案申し上げていることは、創造人材の誘致です。一次産業から観光業に至るまで、地域の中にいろいろな産業がありますし、新しい産業を創出していくという課題もありますので、そういうことを担う新しい人材を地域に引っ張ってくることをやりましょうということで、ずっと取り組んでおります。

そのために何をしているかといいますと、プロの移住コーディネーターを育成しますというお話を一方でらせていただいています。やはり地域と外部の人をつなぐためには、地域にいろいろな人がいらっしゃるということ把握していないといけませんし、移住を考えていらっしゃる人の期待やニーズ、背景をそれなりに把握した上で、どのような方につないでいくか、どのような地域につないでいくのがいいかということきちんとコーディネートできないと、お互いに不幸なことになり得るなと思っていますので、これで食べていくというコーディネーターをつくるのが重要です。

次にやっていることは、移住体験の家をつくりましょうということで、各地で取り組んでいただいています。これは移住に至るまでに繰り返し地域にお越しいただくケースが多いのです。いきなり来て、すぐ決める人ももちろんにはいますけれども、やはり何度か地域に足を運んでいただいて、地域のいろいろな人に会っていただいて初めて移住を決めるとなりますので、そのための受け皿として1週間まで無料で滞在いただける家を各地に今、私どもの関わっている自治体（加賀市、能美市、宝達志水町）では用意させていただいています。

その上で、空き家のすぐ住める化です。これだけ空き家がありながら、なかなか移住希望者さんの期待に応えられる住まいは用意できていません。若いファミリーもそうなのですけれども、やはり戸建て住宅を希望されるのです。最初から家を買うとか建てることは、なかなか難しいです。ですから、戸建て賃貸の家を増やすことを、空き家を活用して、取り組んでいただきたいと、ずっとお願いしております。

あと、地域にとって重要だと思っているのは、地域の人、一人一人が極めて魅力的な存在であることをもっともっと発信していただきたいです。私どもも、いろいろな方の情報発信をしていますけれども、限界があります。地域を挙げて、それぞれのジャンルで活躍していらっしゃる人は極めて魅力的な人であることを発信していただいて、それを見た人がこの地域に足を運んでいただくこととつないでいけるといいなと思っています。

能登定住・交流機構と一緒に立ち上げていただいた皆さん方と議論をした結論は、最大の

資源は人であるという話です。その成果として、県の支援もいただいて「能登人（のどびと）」という冊子をまとめ、「能登人と過ごす能登時間」という体験交流型のプログラムを発信してきています。一人一人の人が最大の資源なので、本当にいい年の80を超えたおじいさんでも、都会から来た学生からすると極めてチャーミングな存在に見えますし、実際に学ぶことは多いはず。そのような出会いを私どもとしてはプロデュースしていきたいと思っております。

### 【水野座長】

やはり人が資源、非常に大事な言葉ですね。

### 【中巳出委員】

私は石川県の伝統文化、農産物、その他のものを生かして商品開発をして地域に貢献したいと起業した会社でございます。会社は、かなりありますが、今のフィールドは、仕事の現場は能登でございます。先ほど岩城さんもいらしたところの珠洲でございます。10年前に能登に入ったときに、能登の原風景が残る風景に大変魅了されて、ここには何とか人を呼んできたいとか、伝統的な揚げ浜式製塩法を、この伝統を何とか守っていききたいと、このようなことで強い思いを持って能登に入りました。

私どもは、初めは企画会社からスタートしたのですが、今は一次産業、揚げ浜式製塩法の塩田もやっております。これはもう6年たちました。時代に逆行していると言われながら、石川県が守ってきた伝統の塩作りを守っていききたいと強く思っております。ただ、伝統というのは常に新しく進化していかなければ、伝統は守っていけないと。みんな進化を怖がるのですが、伝統の軸になって一番大切なことは何かをしっかりと踏まえて、常に時代とともに進化しなければいけません。

能登には前田藩が守ってきたすばらしい揚げ浜式製塩法という伝統的な塩作りがあるのですが、今海水にいろいろな問題がありまして、プラスチックが大変浮遊していて、世界中の海がプラスチックに悩んでいます。そして、その時代の能登の塩作りというのは、里山と里海がセットになって進化してきたことなのですが、どちらも非常に今危機に面しています。

私どもは、とにかく能登の海の自然、山、この2つを絶対に死して守りたいということです。問題は、海の場合はプラスチック除去ができるのですが、里山のコナラの木ですね。里山は今、本当に大変なことになっています。山は荒れて入れないですよ。ですが、コナラの木は切つていかないと再生しません。更新伐採というのですけれども、直径20センチ以上に。昔は薪に使ったりして人と自然とがうまく共存していたのですが、今はほとんど切りません。山の木を切り出して山を守るといって、これがとても大事なことだと思っております。それを大切にしながら、時代とともに新しく進化していかなければいけません。

能登の財産である揚げ浜式製塩法の塩作りは観光で終わらせたくない。これは今、世界中が岩塩とか湖塩とかいろいろありますが、海塩では見直されているのですが、ですが私どもは世界にいろいろな海塩がありますが、能登の海塩を世界に発信したいと思っております。ただ、自然と対峙する仕事ですので、これは限られます。機械で作るのではありませんので。ただ、そのためにはできるだけ努力。この時代、安心・安全が広く問われている時代ですので、私どもは一次産業では非常に難しいと言われるような世界のHACCP認証も受けました。これは一次産業では無理と言われていたのですが、いきなり取り組んで、これは能登の塩を世界に売るということではなくて、能登の伝統的な塩作りでも安心・安全にしっかり心

した製塩事業としてあると。

そして、この塩だけでは私どもどうしても限りがありますので。自然と対峙していますので。この塩を軸にして、それを幹にしていろいろな商品を開発したり、それを観光にしたり。というのは、観光は今年もいろいろあったのですが、今の観光は見る・学ぶ・体験する・食するということだと思っております。そういうことで幹をしっかり立てて枝をつけて繁茂させて、また幹を太らせたいと。そのようにして伝統的な塩作りを守っていきたいと思っております。

石川県の成長戦略について考えた場合、成長戦略の一として奥能登の里山里海の魅力を生かすことも有る意味ひとつのテーマになるとではないかと思えます。能登は公共交通網やネット環境がすこぶる悪く、地域による格差を解決することも急務の課題だと思っております。

### 【水野座長】

能登の自然と、そこに住まれている人が里山里海という空間をつくって、それが常に共存していく。そして伝統を紡ぎだされていっている。そういう地域社会ですね。里山里海というのは本当にいい言葉です。人間との関係、自然との関係を含めまして。

### 【西川委員】

今回、個性豊かな地域づくりということですが、個性豊かとはまた違うのですが、やはりスポーツという関わり方は、やるだけではなく見る、支える、いろいろな形があるかと思えますけれども、そのような体験を通じて生活が豊かになる非常に重要なコンテンツなのではないかと考えております。

今回いろいろな議題といいますが、問題や課題という中で、3つほど次の取組とか、取り組んできた中で感じたことを伝えさせていただきます。今、ワールドカップをやっておりますが、やはりスポーツは地域などが1つになれるとても強力なコンテンツだと思いますし、今実際にカタールにたくさんの日本人が行かれていますけれども、交流人口を増やすという点では、1つスポーツは大事なのではないかと考えております。

石川県は本当に観光資源も豊富ですので、開催相手のチームのファン、サポーターの方が年間、全試合相手チームのところへ行けるわけではありませんで、どこへ行こうかといったときに、やはり金沢など石川県は選ばれやすいところだと思っております。そのようなところをもっともっと発信できれば、スポーツツーリズムという言葉がありますけれども、そのような方々をもっと呼び込めるのではないかと考えております。

もう一つが、外国人の方との共生というところです。今、資料を見てあれなのですが、ベトナムの方が一番多いという図を拝見しましたが、東南アジアなどは非常にサッカーが国技並みに盛んでして、実は石川県にいるベトナム人の方もたくさんチームをつくって、おそろいのユニフォームを作ってサッカーをしているのです。木場潟などに行くと週末のたびにたくさんベトナム人のチームがサッカーをしていたりします。

我々も1回、2019年のコロナ前ですが、ベトナムデーというのをやりまして、試合前にベトナムの方のチーム、10チームほど、10チーム募集したのですが、あっという間に埋まりまして、前座で試合をやらしてもらったり、試合中はベトナム語でアナウンスしながら試合を見ていただいたりしました。そのような交流という場をつくって、またスポーツにおいて、特にベトナムは本当にサッカーが熱いので、そのようなところで交流をつくる場

になれるのではないかと感じております。

あとは、運動習慣というところで、こちらの数字でも石川県は全国に比べて少し少ないということです。私どももいろいろな調査を見ている、全国的に運動習慣は少ないのかなと思っております。一方で、運動をすることでの幸福感が高いというデータがある中では、やはりハードも大事ですし、小さい子どもや小学生、中学生だけではなく、生涯楽しめる、そのようなソフトを提供していくことが大事ではないかと思っております。

我々はスクール活動をやっているのですが、スクールというと子どもだと思われがちなのですが、今600人の生徒の中で、150人ぐらい大人の生徒さんがいらっしゃいます。最近では、シニアの75歳まで入っていただけるクラスも開始しました。まだ人数はそれほど多くないですけども、やはり一定程度のニーズがあります。そのようなソフト面と、ハードというやはりどうしても雪国ですので、冬場になると急激に活動ができなくなるというのは、なかなかお金がかかる話で難しいかとは思いますが、そのようなところも一部の人だけではなく多くの人々が体を動かせる空間ができると、とても豊かになるのかなと感じております。

### 【水野座長】

先ほどのアンケートの御説明をいただいたときに、スポーツの数が非常に少ない数値が出ていました。あれには少しびっくりしました。ですがワールドサッカーを見ますと、一喜一憂するなと言いますが、国中が一喜一憂して、ものすごい影響力です。

### 【早川委員】

先ほど岩城さんから、成長戦略会議という、その指標は何かと、そのような質問がありました。私も上場企業の経営者をやっていたので、そこは非常に気になるのですけれども、私なりに考えてみました。まず全体のところで、この会議は何を目的にするのかといったときに、私が立てた仮説は石川県の人口を増やすことだと。それが成長なのだと規定しました。人口が減って成長する国、地域、都市はありません。この会議が結果的には、やはり石川県の人口を増やすことにつなげる。ここがゴールではないかと思っております。

ですから、何のための文化、何のための個性豊かな地域づくりなのか。それはやはり人口につなげる、人口を増やすことにつなげるための文化であり、豊かな地域社会だと、自分の中で規定しております。

私は観光プロデューサーでありまして、知事にも言ってきていたのですけれども、観光の最終的なゴールは移住です。行ってみたいところを住みたい場所に変える、これが観光の目的だと言ってきました。観光というのは、そのきっかけになるのです。ネットで情報を得るだけではなく、実際に観光で体験をすることで、この町に住んでみたいと思えるきっかけをつくることできると思うのです。そのためにはどういう観光をしていくかといいますと、体験型で、見るだけではなく、きちんと体験をするということです。文化に触れる、食に触れる、そういう体験型の観光をこれからも充実させていかなければいけないと考えるわけですね。

体験という意味では、必ず文化というものがベースになります。その文化に触れるというのは、観賞するだけではなく体験をします。体験をしますと触れ合いが出てきます。文化に触れ合う、人に触れ合うということが出てきますので、そのようなことを充実させたい。あとは、何人かおっしゃっていますけれども、食というのも体験なのです。胃の中に食べ物を

入れるというのは体験なのです。初めて食べる味、初めて味わう味、そういうことが1つの体験だと思います。こういう体験することを増やして、そういう観光を増やしていきたいと思っております。

この資料を読みまして、私はこれは統合報告書に近いと思いました。統合報告書といいますのは、岩城さんは御存じだろうと思うのですが、上場企業は年に1回、財務情報と統合報告書を出さないといけなくなりました。昔は財務情報だけでよかったのですが、何かといいますと、その企業が社会にどのような貢献をしているか、SDGsのどういう取組をしているか、その企業に働いている人が満足しているのか、モチベーションはどうかということを中心に報告しなければいけないことになったのです。これは、それだなど。石川県の統合報告書だなどと思って見ていました。

一番重要なのは、私もちょうど8月にこのアンケートをうちの会社でやりまして、40項目ほど、こちらに近い項目で取ったのですが、一番重要な項目は、私が働いている会社に知人を推薦しますか、入社したときに、うちの会社に来たらいいことありますよと言ってくれますか、言ってくれるかどうかという、その質問なのです。それは石川県についていいますと、私が住んでいる町に来てくださいよと、ここはすごくいい町ですよと言えるかどうか、そういう町づくりではないかと思うのです。

そのときにポイントになるのは、これは少し観光と離れてしまうのですが、私はやはり子育てだと思っております。子育てが安心してきちんとできる町なのかどうか。どんなに仕事があっても、旦那さんが行きたいと言っても決めるのは奥さんです。女性が、そこだったら安心して、その町に行けるな、というところが、とても重要だと思っております。ですから、子育ての環境はやはり整えてほしい。でなければ、観光で来てでも最終的に移住の決断を出すのは難しいのではないかと思います。

観光に戻ります。目玉はつくってほしいと思います。石川県ならではの取組をやってみたいと思います。それは何かといいますと、例えば今度新幹線が延伸して敦賀まで行きます。小松、加賀温泉という駅ができます。加賀温泉は、なかなか苦戦しています。新幹線が開業しても、本当に稼ぎになるかどうか非常に分からないと言ってしまうとあれですが、ここで1つ今キャッシュレス。キャッシュを使わないで観光ができる人たちが、どんどん増えています。そのようなニーズが増えています。例えば、加賀温泉エリアをキャッシュレス特区というのですか、そのようなキャッシュを使わないで観光ができる、支払いができるということができたら、とても目玉になりますし、面白いですし、あそこで成功しているのだったら、石川に行って勉強してみようということができないのではないかと思います。

あとはもう一つ、観光で得られたデータをどんどん収集して、それを次の観光の掘り起こしなどに使っていくようなことに、ぜひとも力を入れていただきたいと思っております。

### 【水野座長】

観光を切り口に、いろいろなジャンルの話題をずっと聞いてきて、非常に大きな構想になっております。

### 【平出委員】

その名のとおり、私が所属しています会は、県内9つの旅行会社で形成されておる第1種の旅行会社の集まりでございます。先ほども説明の中に、疲弊した観光産業とありました

が、まさにその真ん中にある業界ではありますが、私はその業界こそ2019年と今と、これほど環境が変わった業界はないのではないかというぐらいの状態でございます。

先ほど来、先生方のお話をずっとお聞きしていますと、私自身が携わっている今の生業である観光業というものは、やはり全てのものに関連してくるのだと思っております。旅行は定住につながる。確かに、そういう目的のツアーもございます。私が実は以前本社勤務のときに部署にいましたスポーツ事業部というところで、そのときの先輩に教えていただいた言葉なのですけれども、そもそもスポーツというのは学校体育から始まったものです。文科省からスポーツ庁というものが出来上がり、その中であつた学校体育の部分がスポーツという1つのくくりで、ある意味外出しを受けました。それによりまして、様々な言葉が生まれてきたと思います。先ほどおっしゃられたスポーツビジネスというのも、その段階から1つ出てきた内容かと思うのです。

やはりスポーツというものは、私たち観光だけではなくて様々な分野、全て横串に刺さるものだと先輩に教えていただきました。今、コロナ禍で私たち全員がこのような形でマスクをして話さないといけない中で、いかに今後観光産業が立ち続けていくかという1つのヒントがスポーツにあるのではないかと、私は最近つくづく思っております。

事実、この週末に大宮駅で、あるイベントに参加してまいりました。これは道行く人たちにお声がけをして、石川県の観光パンフレットをお渡しし、新幹線開業に向けたプロモーション活動の一環だったのですが、3時間ほどで50数名の方とお話をしました。「ツエーゲン金沢の試合を見に金沢に行ったことがあります」と言った方が十数名みえたのです。世代的にいうと大体30代、40代ぐらいの方で、正直、思っていたよりも高いと思えました。それで金沢に初めて行ったのです。どう思いましたか。とてもいいところですねという。大宮という場所ですので、大宮もJ2のクラブチームがありますので、その関係かと思えます。

スポーツを通じた観光という施策であれば、一気に敷居が低くなると思います。若い人たちからお年寄りまで、皆さんの部分で刺さるのがそうなのかな。ですから、今回、あらゆるレジュメの中にスポーツという言葉が出ているのかなと私なりに、勝手に解釈をさせていただきました。

早くインバウンドが戻ってこなければいけないと思っておりますが、今だからこそ私自身としては、もう一度原点に立って当時先輩から聞いて、ああそうなのだかと純粹に思ったことを体現化していきたくと、今日先生方のお話をお聞きして思った次第でございます

### 【水野座長】

スポーツも、先ほど西川委員からありましたけれども、地域スポーツも地域文化の1つだと、だんだんできてきているのと、ドイツなど、その辺がすごいですね。そういうことも含めて、スポーツというものは文化として再認識されているということではないかと思えます。

### 【水本委員】

石川地域づくり協会は県内の地域づくり活動を行う団体を支援する団体として、現在は164の団体が加盟しております。コーディネーターが28名在籍しております。様々な活動をしておりますけれども、私どもは実は文化は大事として、この地に生まれて百万石文化がかなり刷り込まれておりまして、それに何の反抗もすることなく今も大好きであります。おいしい上生を食べてお抹茶を頂くのも大好きですし、仲間と酒米を作って酒蔵に行つて、なん

ちゃって酒造りを体験させていただいて、みんなで美酒を飲むということも大好きです。そのようなことで、文化とのつながりが今も続いております。

実は今日、このようなつもりではなかったのですが、石川地域づくり協会では毎年1回シンポジウムを開催しております、今回のテーマが、そのようなつもりはなかったのですが、先生が文化のつながりということをおっしゃっていましたので。実は今回、地域づくり円陣、円陣というのはぐるぐるのエンジンと、またみんなで円陣を組もうという円陣に掛け合わせたタイトルですが、毎年1回、実は今週の土曜日に開催いたします。

今回のタイトルが文化祭との協賛企画で、つないできたもの、つないでいくもの～祭礼・工芸の継承から学ぶ地域づくりということで、コロナ禍で途切れてしまったつながりをどのように取り戻そうかを考えましたところ、やはりお祭りや工芸、伝統産業など、そのような方々の先輩がいたじゃないかということで、ここから学ぼうという企画です。本当に今日、たまたまここで合致しまして、びっくりいたしました。

地域づくり協会では、地域づくりとは自分の地域をよくすることと定義づけております。そして先ほどから、皆さんから御意見をいただきましたけれども、地域づくりとは人づくりということで推進をしております。これはどの分野においても御共感いただけると思います。やはり個性豊かな地域づくり、この事業においても重要なポイントですので、個性を磨き上げるには事業者の方々の御支援と御専門の方々の皆さんのお力とコーディネーターとサポートとか、多様な方々との協働やチーム連携が必要だと思います。

そして先ほども御意見がありましたけれども、共感を基に地域の方々の巻き込み。巻き込み、巻き込まれるというものが一番大事かと思っておりますので、そのような方々と充実や達成など、そのようなことを目指していければいいと思っております。

少し要望にもなりますけれども、やはりコロナ禍では私どものイベントや交流が、なかなかできません。いろいろな制約を受けました。若い世代でも予想以上に孤立している家庭というのがありまして、そのような方々がケアを必要としているのですが、地域づくり活動の中では現在、つながり直しということを行っております。そのような視点を施策の中に盛り込んでいただけたら、ありがたいと思っております。そのような方々が地域とつながることによりまして、地域の宝を磨きまして担い手も増えて、地域をどんどん活性化していくきっかけになると思っております。

それと、これはもう一つ要望ですが、成長戦略会議が先日ありましたけれども、コロナ禍において目標を達成しているところがたくさんあるのです。それはとても素晴らしいと思ひまして、コロナ禍ならではの手法ですとか、逆手に取ったやり方で、かなり皆さん達成していらっしゃるって、すごいと思っていたのですが、これから私たちが考えさせていただくものも、コロナ前の状態だけではなく、それよりももっといいもの。コロナ禍のときにもいろいろ課題があったと思うのですが、そのようなことを解決したり、コロナ禍で学んだこと、知恵や気づきがあったと思うのです。リモートも素晴らしいのだけれども、やはり直接会うのは贅沢でいいなど、いろいろなことを多分皆さん学ばれたと思うのですが、そのようなことを盛り込んだ政策になったらいいと思っております。

それと、石川県ならではの、やはり新しい文化をここで1つ2つ提案できたらいいかなと思っております。例えば、小さなことですが、小学生、中学生、高校生の女の子たちは、今ダンスに夢中でして、皆さん動画をいろいろと投稿したり、それを交換したりしていますけれども、例えば伝統的な舞や舞踊だけではなく、そのようなところとコラボしていっ

て、衣装や音楽など、いろいろ分野でコラボできるはずですので、石川県ならではの新しい文化をつくれる可能性はたくさんあると思います。

それと、留学生が大学や専門学校にたくさん来ていますが、留学生に学校を選ぶポイントとして、石川県は伝統文化がたくさんあって楽しいのだよという、かなり食いついてくるのです。ですから、彼らは彼らなりに日本全国にネットワークを持っていますから、留学生向けの石川県の文化、農業も含めた、そのようなことが体験できる企画があれば彼らも喜びますし、また石川の地にいろいろな学生が集まってくると思います。

### 【水野座長】

私も少し感じていることを申し上げますと、私が知っている金沢から能登、いろいろな経済人との付き合いも多いのですが、そういう人たち自身も経済の生み出す仕事に大変夢中になっている一方、文化人だなど思うことが非常に多いです。皆さん、どんなことを自分の仕事にしているかといいますと、大規模大量生産の機械産業というよりも、手で少しやっっていくようなものを作ったり、機械も自分のところのニッチな機械を作り出すというような、そのような分野にいらして、繊維機械にしても金属機械にしても、みんな狭い範囲で、マイナーなのだけれどもインターナショナルな輸出産業になっているという、そういうものが多いのです。繊維産業にしてもそうです、食料産業にしてもそうです。

そう思いますと、石川の経済界は戦後の近代化の機械産業による大量生産、大規模工場ではなく、自分の家業として産業を興し、農林業に従事し、それからいろいろな文化産業をやっているという、そういう家業文化が持っている。私の友人、出島二郎さんに言わせると、家業というのは文化装置だと言っていましたけれども、そのような雰囲気文化というものがある、それが石川県を支えているのだという感じがします。

ですから、工芸がある、あるいは美術がある、音楽、芸能、そういうのがあから石川は文化立県だと、そういう側面と、一人一人が豊かな日常を持っている、そういう人がたくさんいる地域としてある、そういう人を育てようではないかというのが、今日の意見でだいぶ出てきましたので、これはなかなか面白くなるかと思っております。

文化立県というのは特殊なものがあるのではなく、農業をやっている人も林業をやっている人も漁業をやっている人も、それから機械生産をしている人も、みんながそういうものを持っているということが非常に大事だと思います。観光で体験型など、そのような話がたくさん出ましたけれども、それもそのような人たちと結びついて初めて生まれる話ではないかと思えます。

スポーツも、あれだけみんなを興奮させるのは、そこに単なる遊びではなく、遊びも含めてかもしれないけれども、やはり人間に感動を起こすような物語が、たくさん入っているからだと思うのです。この分科会だけではなく、本当は全体が文化を1つのテーマにしているのではないかと、今日の意見を聞いて思いました。

少し時間が残っていますので、追加で述べたい方がおられましたら、挙手を願います。

### 【伊藤委員】

今日の皆さんのお話を聞いている中でも、また私自身も最初に迷ったのですが、資料を送っていただいて読んだ際、成長戦略会議の成長とは何を定義しているのだろうと。早川委員は、もうすきっと人口と、ここに絞っていきますとおっしゃいましたし、私は定義について

は言及せず、このようなコンセプトではと考え始めましたし、皆さんのお話を聞いていて皆さんもそのように感じたのではないかという気がしたのです。岩城さんも、そうおっしゃっていました。

ですので、成長の定義は私たちが考えるものではなく、主催者である石川県、成長戦略会議が定義するものなのか、あるいは分からないのですけれども、私たちが例えば提案していくことができるものなののでしょうか。どちらにしても私たちの議論はこれから各論に入っていくと思うのですけれども、議論するときに行き先がみんなそれぞれ違うところを見ていると、迷える子羊ようになってくるような気がする私は今日感じたのですが、いかがでしょうか。

### 【水野座長】

県の事務局のほうは、いかがでございましょうか。ただいまの伊藤委員の課題に対しまして。

### 【竹内観光戦略推進部長】

公式な回答には、いろいろな意見があって難しいとは思いますが、

成長というのは、県全体の活性化であったり発展であったり、いろいろな意味で伸びていくことをイメージした、それに向けての戦略でありまして、それぞれの部会によって成長の考え方は多分違うと思うのですね。我々今回は、文化・観光という、そういう部分での成長といったときに、トータルの成長をそれで手にできるかというのは、個別のいろいろな議論の中で成長の定義は、出てくる可能性があるかなと。

私は今日、皆さんのお話を聞いておまして、私のセクションは観光でございましてけれども、そもそも今皆さんがおっしゃっていた文化や人づくりなど、要は多様な人がおりながら、いろいろな財産もありながら、それをいかに交流に結びつけていくかというものが、極端には命題ではあります。

ただ、やはりコロナ禍でどうなっていくかという話の中に、今まではどちらかというところとKPIとして入っていたものが、量が中心でありました。それは極めて分かりやすい数字ではありますけれども、そこに石川が求める質的な高さをなかなか表現できないことがありまして、そのような意味で今回、説明の中に消費額もそっと入れさせていただいたのですけれども。

やはり量から質へとか、高付加価値とか、そういう満足度を高めていく中で、それがモノであったり人との交流であったり、それが高ければ高いほど、また来たいという話。人が石川に来たときに、先ほどの海鮮井やおでんなど、いろいろな話がございましたけれども、まさに石川が持っている人の多様性や財産の深みを活かしていきたくなくて、表面づらだけの観光になっているのではなかろうかと。今さらながら文化観光などのようなことも言っています。

そのような意味からいいますと、我々にとっての成長は、やはりいろいろな財産を持ちながらもそれを最大限に活かして人づくりであったり、そういうものにつなげていくことをどのようにKPIに変えていくのかということになるかなと思います。

ただ、では全体の成長が我々の考える成長の定義でよろしいかというのは、あまりにも成長の定義がそれぞれの分野で、やはり持っている課題に対して、そこにどう進めていくかということになるかなと思いますので。今回の10年というスパンの中での成長を考えるという

ときに、部会を立てて、観光の中では少し質的に掲げていって、最大限にそれを活用できるような方向性に持っていく、その中で成長をどう定義していくかということになるかと思っています。

あまりお答えにはなっていないのですが、非常に難しい話でありまして、とりあえず我々が今考えているゴールのイメージの中に、その成長をどう定義するかを今後考えていく必要があるかなとは、今回お聞きして思いました。

#### 【高峰委員】

文化という話の意味では関連しますが、要は、石川県の伝統的な文化財、芸能は、基本的には背景に産業があるのです。例えば、能登の民俗文化財は、基本的には農耕を表現しているものが多いです。門前町の「ぞんべら祭り」、「万歳楽土（まんざいろくと）」もそうですし、能登各地で伝えられている「あえのこと」も農耕の神様を歓待するものです。産業が衰退すれば文化も衰退していく。能登の民俗文化財が危機的状況にあるのは、能登の一次産業が衰退しているからなのです。

ですから、地域の産業振興政策が一方にないと、文化だけ振興しましょうといっても無理があるのです。そこだけ学んで伝えるというのは無理があります。ですから、やはりこの話は産業振興施策と連動していないと、うまくいかないのではないかと思います。そこをあえてお話しさせていただきます。

#### 【水野座長】

国土省などでは、人口減がはっきりしています。経済成長は低成長に完全に入ってしまったて、それから多分抜けられないだろうという前提の中で国土計画をやるときには、成長という言葉を使わず、成長から成熟へという、成熟という言葉を使っていました。その成熟という言葉の中には、やはり人権の問題や文化の問題、生活の安定の問題、医療・福祉の問題、そのような質的な向上を目指すという国土計画になっているのですが、そのようなこともつながりました。

この議論は、部会によっては成長を目指す部会があるかもしれませんが、文化の部会で成長という言葉は、なかなか似合わないかもしれませんが。そういう意味で成長というのに対して、この部会はどうするのだという疑問は、当然あっていいのではないかと思います。では、どこへ行くのだということは、3回目ぐらいに結論が出るのかもしれませんが、少し議論していきたいと思います。

それでは、これで意見を終了させていただきます。今後の方向性につきまして、今後開催されます成長戦略会議、親会議において、私から部会を代表して報告をさせていただきます。そこで、どのような反応が出るか分かりませんが、御報告させていただきます。また、第2回目の部会もいつか開かれるでしょうから。多分、年を越してですので、いい初夢を見ていただきまして、御意見をいただければと思います。今日は、ありがとうございました。

## 4. 閉会

#### 【竹内観光戦略推進部長】

水野先生、どうもありがとうございました。以上をもちまして、第1回の石川県成長戦略会議、個性豊かな地域づくり部会を終了いたします。

本日はお忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございました。第2回の会議につきましては、また改めて御案内をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 第1回個性豊かな地域づくり部会開催後の意見

令和4年12月21日  
金沢学院大学教授 丸山 章子

まず、9月5日の第1回石川県成長戦略会議において、石川県が目指す方向性について検討しました。その中で「文化立県、文化都市」であるべきということが話し合われたかと思えます。それを元に各部会は構想を練るべきだと思います。企業にも VISION があって、MISSION があり、VALUE がある。その共通認識があるからこそ、大きな企業も同じ方向を見て進んでいきます。

個性豊かな地域づくり部会については、「個性」という言葉がキーワードになるかと思えます。石川県の個性とは何かを考えた場合、「伝統工芸」「地方には大学が多い」「品がある」「住みやすい」等、色々あります。まずその個性は何かをしっかりと分析する必要があります。私は、(公財)日本体操協会トランポリン強化本部女子本部長をしていますが、現状分析をする際に SWOT 分析をします。SWOT 分析することで「強み」「弱み」「機会」「脅威」が明らかになります。その上で、石川県の個性について審議し、個性豊かな地域とはどうあるべきかが語れると思えます。

私の専門であるスポーツについて。文化立県である石川県の個性豊かなスポーツのあるべき姿はどんなものか。スポーツも文化であり、人々の生活を豊かにするものです。スポーツも文化であるという捉え方をした上で、個性を出していくためには以下のことを提案します。

①部活動の地域移行をポジティブに捉えたスポーツのあり方を考える。

欧米では(特にドイツ)、部活動はなく、子どもたちは地域のスポーツクラブ等でスポーツを行います。スポーツの選択肢も多く、いくつものスポーツを掛け持ちで楽しみます。スポーツを趣味の一貫として、楽しんで行うことが前提にあります。スポーツを楽しむことを大切にスムーズな地域移行を推進する(指導者等の問題もあるが)。

②東京オリンピックを契機とした石川県の特徴あるスポーツをレガシーとして受け継ぐ

石川県に根付いているオリンピック選手を輩出しているスポーツの次世代選手を県として育てる。その選手たちが中央へ行かず、石川県でも強化できるシステムを構築する。

③スポーツを見る文化をして根ざす。

行うスポーツだけに限らず、プロスポーツ・アマチュアスポーツを観戦する、応援することでスポーツ文化に触れる。観戦する、応援する雰囲気作りと行きたい気持ちにさせることを考える。ツエーゲン金沢、ミリオンスタース等のプロスポーツとのタイアップ。

④アーバンスポーツの導入

若者人口を増やすためにもアーバンスポーツを安全に行い、親しんでいく。楽しむスポーツの推進。

⑤大学施設を使用したスポーツの推進

地方には大学が多い特徴を生かし、大学とタイアップしたスポーツを推進させる。また将来はそのスポーツの指導者として石川県に残るような仕組みを考える。